

【成果】

1. 現状の説明

(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。

◆大学全体

学習成果に関する測定・開発のため、米国の AAC&U (Association of American Colleges and Universities) が定めた VALUE Rubric の中の 5 つを活用し、本学の人材育成目的を踏まえたラーニング・アウトカムを設定している (資料 4(4)-1)。これらのラーニング・アウトカムに基づき、4 年間の学生生活を通じた学生の学びや経験等を評価し、学生の成長の過程を可視化する取組を進めている。現在までに実施および実施計画中の評価対象分野は、以下のとおりである。

① 共通教育科目・言語教育科目

英語および日本語では、レベルごとに四技能 (読み・書き・聴き取り・会話) に関する Rubric や Can-Do リストを作成し、学習成果の測定を行っている (資料 4(4)-2)。また英語科目では TOEFL-iTP の受験を義務付けており (1・2 回生時に計 4 回)、そのスコアは、英語科目 (学生の必修対象科目のみ) の成績評価に反映している。

② 初年次教育

全 1 回生が履修する「新入生ワークショップ I・II」では、受講前後で授業を通じての成長を自己評価し、教育改善に活かしている (資料 4(4)-3)。また、初年次教育を主に担当する教員で構成される教育開発・学修支援センターでは、現在、初年次教育全体の教育目標を整理し、その測定のための Rubric の開発を進めている。

③ 海外教育プログラムにおけるポートフォリオ測定

「大学の世界展開力強化事業」で実施している入学前留学プログラム*1 や、多文化協働プログラム*2 において、e-ポートフォリオ (manaba folio) を導入し、プログラムごとに設定したラーニング・ゴールに照らして、学習成果をアセスメントする仕組みを設けている (資料 4(4)-4)。これにより、学生の学びや成長を可視化でき、学生および教職員がそれ共有し、相互支援を行っている。またそれにより、強い学び合う環境 (ラーニング・コミュニティ) が形成されている。

*1 入学前 3 月に約 2 週間、入学予定者が米国の ST.EDWARD'S 大学で、英語による学習や異文化を体験し、また、本学の 4 年間の学修計画を立てさせるプログラム。

*2 2 回生時に 2 カ月間、米国の ST.EDWARD'S 大学へ派遣し同大学の授業等を履修し、その後、同時期に本学で学んでいた ST.EDWARD'S 大学学生とともにタイ・マレーシアのフィールド調査に派遣し、協同学習を行うプログラム

教育目標に関する評価指標としては、次のような点を挙げることができる。

① 授業外学習時間

教育目標を達成するためには、4. - (3) 教育方法の部分で説明しているさまざま

4. 教育内容・方法・成果
【成果】

まな制度を活用して、予習・復習を中心とする授業外学習時間を増やすことが重要であり、授業外学習時間を一つの指標として位置付けている。本学の学生は、日本の他大学の学生よりも授業外学習時間が総じて長い。ただし、同じ授業環境下にある国際学生は以下のとおり、国内学生よりさらに多い学習時間となっている。

(本学国内) (本学国際) (国内大学平均)

1 時間未満 :	32%	9%	66.8%
1 時間以上 :	35%	33%	↑ 33.2% ↓
2 時間以上 :	20%	26%	
3 時間以上 :	6%	13%	
4 時間以上 :	3%	12%	
5 時間以上 :	2%	5%	

② 海外教育プログラム派遣者状況

国際学生の場合、日本へ一度、海外留学をしているとも位置付けられるので、評価指標としては国内学生に焦点を当てている。2013 年度でのべ 316 人の国内学生を海外教育プログラムで派遣している。

本学では、新入生対象アンケートおよび全学生を対象とした学生生活アンケートをオンラインで実施している。新入生アンケート 90%以上、学生生活アンケート 40%弱の回答率である。これらのデータ(本学の志望順位、入学時の不安な点や期待する点など)と入学後の成績、自主活動、就職実績等の学生実態とあわせて分析する取組を進めている。

卒業後の評価としては、各国・地域の卒業生との人的ネットワークの強化の中で、地域ごとの企画において、適宜卒業生からの情報を収集している。

◆アジア太平洋学部

授業評価アンケートの結果、以下のような満足度・理解度となっており、おおむね、適切な教育成果を得ていると考えている。

	満足度 平均値	理解度				
		0~20%	~40%	~60%	~80%	~100%
13 春学部	78.6%	2.1%	5.2%	19.2%	43.5%	27.5%
13 秋学部	83.2%	1.5%	3.8%	19.0%	40.8%	32.6%

◆国際経営学部

AACSB 認証評価・プロセスの取組の一環として、学びの質保証 (AOL) に取り組んでいる。具体的には、カリキュラム・アラインメント・マトリクス (CAM) の作成・活用、ラーニング・オブジェクトィブズの測定を行い、カリキュラムや授業内容についての改善計画を策定した。具体的には次の取組を計画している (資料 4(4)-5)。

- ・ 次期カリキュラム改革では、ビジネス・エシックスを主要科目に設定
- ・ 次期カリキュラム改革では、国際経営論を主要科目に設定

4. 教育内容・方法・成果
【成果】

・ より実質的な国際的側面を主要科目もしくは専門科目の内容に盛り込む
また、授業評価アンケートの結果、以下のような満足度・理解度となっており、おおむね、適切な教育成果を得ていると考えている。

	満足度 平均値	理解度				
		0～20%	～40%	～60%	～80%	～100%
13 春学部	73.1%	3.3%	5.3%	19.7%	39.6%	29.3%
13 秋学部	76.1%	2.2%	4.7%	16.7%	40.8%	32.6%

◆アジア太平洋研究科

授業評価アンケートの結果、以下のような満足度・理解度となっており、おおむね、適切な教育成果を得ていると考えている。

	分類	満足度 平均値	理解度				
			0～20%	～40%	～60%	～80%	～100%
13 春院	GSA 共通	94.2%	0.0%	0.0%	0.0%	34.6%	63.5%
	APS	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	27.6%	72.4%
	ICP	93.4%	0.0%	0.9%	0.9%	17.0%	77.4%
	GSA・GSM 共通	84.8%	1.5%	6.1%	6.1%	36.4%	48.5%
	GSAD	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
13 秋院	GSA 共通	96.4%	0.0%	0.0%	2.4%	23.8%	67.9%
	APS	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	71.4%
	ICP	95.5%	0.0%	0.6%	2.6%	26.0%	64.9%
	GSA・GSM 共通	86.5%	1.4%	0.0%	17.6%	39.2%	40.5%
	GSAD	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	57.1%

※ GSA 共通：アジア太平洋研究科博士前期課程共通科目

APS：アジア太平洋学専攻科目 ICP：国際協力専攻科目

GSA・GSM 共通：アジア太平洋研究科博士前期課程／経営管理研究科共通科目

GSAD：アジア太平洋研究科博士後期課程科目

◆経営管理研究科

AACSB 認証評価・プロセスの取組の一環として、学びの質保証（AOL）に取り組んでいる。具体的には、カリキュラム・アラインメント・マトリクス（CAM）の作成・活用、ラーニング・オブジェクティブズの測定を行い、カリキュラムや授業内容についての改善計画を策定した。具体的には次の取組を計画している。（資料 4(4)-6）。

- ・ 2014 年度に実施された新カリキュラムにおける学生の学びを観察し、効果を分析
- ・ ビジネス・エシックスの強化等の「今後の行動（2013-2018 年度）」の全てを実施

また、授業評価アンケートの結果、以下のような満足度・理解度となっており、おおむね、適切な教育成果を得ていると考えている。

	分類	満足度 平均値	理解度				
			0～20%	～40%	～60%	～80%	～100%

4. 教育内容・方法・成果
【成果】

13 春院	GSM	89.1%	1.4%	0.0%	8.8%	40.8%	49.0%
	GSA+GSM 共通	84.8%	1.5%	6.1%	6.1%	36.4%	48.5%
13 秋院	GSM	86.7%	0.0%	2.0%	4.0%	44.7%	49.3%
	GSA+GSM 共通	86.5%	1.4%	0.0%	17.6%	39.2%	40.5%

※ GSM：経営管理研究科科目

GSA・GSM 共通:アジア太平洋研究科博士前期課程／経営管理研究科共通科目【再掲】

(2) 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。

学位授与基準は既述のとおり大学設置基準に基づき適切に設定され、その学位授与基準にそって学位授与手続きを実施している。

◆大学全体

学士の学位授与は、「立命館アジア太平洋大学学則」および「立命館アジア太平洋大学学位規程」に則り、教学部会議および教授会の審議を経て、学長が決定することとしている（資料 4(4)-7 第 30 条）（資料 4(4)-8 第 7 条）。なお「立命館アジア太平洋大学教授会規程」において、卒業に関する審議を行う専門委員会として卒業判定委員会を定めており、そこでの審議をもって、教授会の審議に代えることとしている。審議結果は、教授会に報告している（資料 4(4)-9 第 3 条）。

修士および博士の学位授与は、「立命館アジア太平洋大学学則」および「立命館アジア太平洋大学学位規程」に則り、同規程第 5 条による学位委員会における審議を行い、さらに教学部会議および教授会の審議を経て、学長が決定する（資料 4(4)-7 第 31 条）（資料 4(4)-8 第 10 条、第 15 条）。なお、「立命館アジア太平洋大学大学院研究科委員会規程」において、修了に関する審議を行う専門委員会として修了判定委員会を定めており、そこでの審議をもって、研究科委員会の審議に代えることとしている。審議結果は、研究科委員会に報告している。（資料 4(4)-10 第 3 条）。

◆アジア太平洋学部

学部における学びの成果の集大成として「専門演習Ⅰ・Ⅱ」（3 回生担当科目）、「卒業研究」、「卒業論文」（4 回生以上担当科目）を設置している。これらは卒業必修科目ではないが、「卒業研究」履修後に、継続して「卒業論文」を履修する学生は 84.7%であり、受講生のうち卒業論文の提出に至った割合は 70%となっている。

2013 年 9 月・2014 年 3 月卒業の学位授与および進路決定状況は、次のとおりである。

2013 年 9 月卒業

*特別に優秀な学生を対象とした早期卒業プログラムによるもの。

	計	6セメ 卒業*	7セメ 卒業*	8セメ 卒業	9セメ 以上卒業	8セメ 卒業率
卒業対象者	272	2	1	129	140	-
卒業判定合格者	170	2	1	106	61	82.17%

4. 教育内容・方法・成果
【成果】

卒業判定不合格者	102	0	0	23	79	-
----------	-----	---	---	----	----	---

2014年3月卒業 *特別に優秀な学生を対象とした早期卒業プログラムによるもの。

	計	6セメ 卒業*	7セメ 卒業*	8セメ 卒業	9セメ 以上卒業	8セメ 卒業率
卒業対象者	483	0	0	383	100	-
卒業判定合格者	351	0	0	300	51	78.33%
卒業判定不合格者	132	0	0	83	49	-

2013年9月卒業者・2014年3月卒業者の就職決定状況

卒業者	就職者	進学者	その他	不明者
521	336	32	116	37

就職率：94.92%（就職者／就職希望者）

（注1）就職希望者は354人。

（注2）就職希望者：卒業者のうち就職を希望している学生

就職者：就職者（民間・公務員・教員）ならびに在学中から引き続きの就業者、家業・プロ契約・起業者を含む

進学者：大学院、海外の大学・大学院、他大学、各種学校

その他：帰国、資格試験・進学等の受験準備、就職活動継続、就職意思なし

不明者：不明、アルバイト、留学等

◆国際経営学部

学部における学びの成果の集大成として「専門演習Ⅰ・Ⅱ」（3回生担当科目）、「卒業研究」、「卒業論文」（4回生以上担当科目）を設置している。これらは卒業必修科目ではないが、「卒業研究」履修後に、継続して「卒業論文」を履修する学生は79.1%であり、受講生のうち卒業論文の提出に至った割合は65.5%となっている。

2013年9月・2014年3月卒業の学位授与および進路決定状況は、次のとおりである。

2013年9月卒業 *特別に優秀な学生を対象とした早期卒業プログラムによるもの。

	計	6セメ 卒業*	7セメ 卒業*	8セメ 卒業	9セメ 以上卒業	8セメ 卒業率
卒業対象者	386	2	1	268	115	-
卒業判定合格者	273	2	1	227	43	84.70%
卒業判定不合格者	113	0	0	41	72	-

2014年3月卒業 *特別に優秀な学生を対象とした早期卒業プログラムによるもの。

	計	6セメ 卒業*	7セメ 卒業*	8セメ 卒業	9セメ 以上卒業	8セメ 卒業率
--	---	------------	------------	-----------	-------------	------------

4. 教育内容・方法・成果
【成果】

卒業対象者	411	0	5	300	106	-
卒業判定合格者	324	0	5	255	64	85.00%
卒業判定不合格者	87	0	0	45	42	-

2013年9月卒業者・2014年3月卒業者の就職決定状況

卒業者	就職者	進学者	その他	不明者
597	359	40	117	81

就職率：93.01%（就職者／就職希望者）

（注1）就職希望者は386人。

◆アジア太平洋研究科

前期課程・後期課程それぞれの修了に必要な学位論文の評価基準を定め、学位授与方針の一部として“Graduate Academic Handbook”において、あらかじめ学生に明示している。なお、過去3年間の修士・博士それぞれの学位取得状況は以下のとおりである（資料4(4)-11 p.19）（資料4(4)-11 p.77）。

学位取得者数／取得率を掲載

課程／専攻		2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春	2013 秋
博士前期課程・ アジア太平洋学 専攻	人数	5	5	2	1	4	0
	見込み	7	7	5	3	5	1
	取得率	71.43%	71.43%	40.0%	33.33%	80.0%	0%
博士前期課程・ 国際協力 政策専攻	人数	56	12	47	8	35	6
	見込み	56	13	48	9	36	7
	取得率	100.0%	92.31%	97.92%	88.89%	97.22%	85.71%
博士後期 課程	人数	3	3	13	10	6	5
	見込み	17	17	30	21	17	17
	取得率	17.65%	17.65%	43.33%	47.62%	35.29%	29.41%

2014年度にカリキュラム改革を実施し、最終成果物（修士論文・研究レポート等）の審査体制を見直した。最終成果物である修士論文および研究レポートともに、2名の審査員（指導教員とほかの学内教員）で審査を実施することとした。また、演習指導においては、専攻内の各研究分野で定期的に合同発表会を開催し、同分野の教員全員が所属学生の研究計画の進捗について確認・指導する体制を敷き、入学直後から客観評価を受ける仕組みを設ける等、研究指導ならびに審査の客観性や透明性、厳格性を図っている。

アジア太平洋研究科博士後期課程では、博士学位請求論文審査の客観性、厳格性を保持するため、審査員に学外者を1名置くことを定めている。

4. 教育内容・方法・成果 【成果】

◆経営管理研究科

修了に必要な学位論文の評価基準を定め、学位授与方針の一部として“Graduate Academic Handbook”において、あらかじめ学生に明示している。なお過去3年間の学位取得状況は以下のとおりである（資料4(4)-11 p.49）。

学位取得者数／取得率を掲載

		2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春	2013 秋
修士	人数	19	9	6	6	22	13
	見込み	20	10	6	7	23	13
	取得率	95.0%	90.0%	100%	85.71%	95.65%	100%

2014年度にカリキュラム改革を実施し、最終成果物（修士論文・研究レポート等）の審査体制を見直した。最終成果物をまず2名の審査員（指導教員とほかの学内教員）が審査し、その審査結果に基づき研究科内に設置された審査委員会が最終審査結果を確定することとした。また、演習指導においては、第3セメスター時（最終セメスターの1つ前のセメスター）に全学生が審査委員会に対して、自身の研究計画と進捗状況を報告するセミナーに参加することを義務付けている。以上の取組により、研究指導ならびに審査の透明性、客観性、厳格性を図っている。

2. 点検・評価

（1）効果が上がっている事項

◆大学全体

1) 学習成果測定の開発

学習成果の測定手法の開発を、言語教育、初年次教育、海外教育プログラム、AACSB認証評価・プロセスで進めている。手法も、Rubric（言語分野、初年次）、ポートフォリオ（海外教育プログラム）、教育目標に対する総合的アセスメント（AACSB：Rubric、テスト等）と多岐にわたっている。

2) 授業外学習時間

期末テスト評価割合設定、授業評価アンケート、教員アセスメント、GPAによる優先登録制度やその他学内選考、奨学金選考等により、既述のとおり、平均的な日本の大学生より授業外学習時間が多い結果となっている。

◆国際経営学部

◆経営管理研究科

1) 国際通用性のある教育への取組

国際経営学部・経営管理研究科では、AACSBの認証評価に取り組んでおり、2015年度

4. 教育内容・方法・成果 【成果】

末の取得を目指している。この認証評価では、学びの質保証(Assurance of Learning:AOL)が非常に重要なスタンダードとなっており、ラーニング・ゴールを明確に示し、ラーニング・ゴールを構成するラーニング・オブジェクティブ(測定可能な、学生に身に付けさせたい知識・能力等)を測定する必要がある。AOLにおいては、ルーブリック等を活用してラーニング・オブジェクティブを測定し、未達成なものについては改善につなげていくトータルシステム(AACSBでは”Close the loop”と呼ばれる)に取り組んでいる(資料4(4)-12)(資料4(4)-13)。

(2) 改善すべき事項

◆大学全体

1) アンケート調査

学生生活アンケートは、紙ベースからオンライン実施への移行等あり、回答率が19.6%(2011年)から7.3%(2012年度)へと減少した。2013年度は、内容・方法等を見直し、回答率は38.4%まで改善したが、さらなる回答率向上が必要である。また、授業評価アンケート以外の学生の成長を測るアンケート調査の充実が必要である。

3. 将来に向けた発展方策

(1) 効果が上がっている事項

◆大学全体

1) 学習成果測定の開発

学習成果の測定には取り組んでいるが、まだ個別の測定にとどまっており、課題は多い。例えば、企業の評価等から人種や国の壁を超えて協働して仕事ができる力が付いているという認識はあるが、これらを客観的に測定できていない。今後はこうしたプロセスと到達点を可視化、明確化することで、本学の教育の実質を内外に明示していく予定である。その具体的な取組として、IR(Institutional Research)、ラーニング・アウトカムズの測定等、教育目標に対する包括的な測定手法の開発に努める。(資料4(4)-14)。

2) 授業外学習時間

授業外学習時間について、学生生活アンケートのデータ以外に客観的に説明できるデータはない。今後、学生生活アンケートの実施方法を改善してデータ収集量を増やすとともに、特定の層に対する学習状況のインタビューを行う等して、学生の授業外学習時間を増やすための政策立案や、さらなる改善につなげることをしたい。

◆国際経営学部

◆経営管理研究科

1) 国際通用性のある教育への取組

学びの質保証（Assurance of Learning:AOL）の仕組みを通じて、学びの質保証の取組をさらに進展し、国際的通用性のある教育を進めていく。

(2) 改善すべき事項

◆大学全体

1) アンケート調査

現在、本学の到達点と課題を可視化する取組として IR (Institutional Research) プロジェクトを進めており、学生生活アンケートの大幅な改善を行った。2014 年度から卒業時アンケートも実施し、これらのデータと入学時から卒業後までの個人データを紐付け、分析を行う。また、授業評価アンケートについては、回答率の向上に取り組む。

4. 根拠資料

- 4(4)-1 AAC&U VALUE RUBRIC
- 4(4)-2 英語科目 Rubric
- 4(4)-3 2013 年度新入生ワークショップ事前・事後アンケート
- 4(4)-4 ラーニング・コミュニティの形成を通じて学生の成長を可視化し促すポートフォリオ
- 4(4)-5 Standard 16: Undergraduate Learning Goals
- 4(4)-6 Standard 18: Master's Level General Management Learning Goals
- 4(4)-7 立命館アジア太平洋大学学則 (既出 1-2)
- 4(4)-8 立命館アジア太平洋大学学位規程
- 4(4)-9 立命館アジア太平洋大学教授会規程 (既出 2-2)
- 4(4)-10 立命館アジア太平洋大学大学院研究科委員会規程 (既出 2-3)
- 4(4)-11 2014 Graduate Academic Handbook (既出 1-9)
- 4(4)-12 大学ホームページ 国際経営学部カリキュラム・アラインメント・マトリクス (既出 4(1)-2)
- 4(4)-13 大学ホームページ 経営管理研究科カリキュラム・アラインメント・マトリクス (既出 4(1)-4)
- 4(4)-14 2013 年度の教学課題 (案)